

# 南会津町地域公共交通総合連携計画

平成21年3月

南 会 津 町

## 目次

### はじめに

- 1．南会津町の概況 . . . P1
  - (1) 位置
  - (2) 地勢
  - (3) 概要
  - (4) 人口・世帯数
- 2．地域公共交通総合連携計画の目指すもの . . . P3
- 3．地域公共交通総合連携計画の区域 . . . P3
- 4．計画期間 . . . P3
- 5．地域公共交通の活性化及び再生の総合的かつ一体的な推進  
に関する基本的な方針 . . . P4
  - (1) 現状分析
  - (2) ニーズの把握
  - (3) 課題の把握
  - (4) 基本的な方針
- 6．地域公共交通総合連携計画の目標 . . . P15
- 7．目標を達成するために行う事業及び実施主体に関する事項 . . . P16
  - (1) 計画事業の概要
  - (2) 計画事業の工程計画
  - (3) 近隣町村などとの連携

### 資料編

## はじめに

マイカー普及による公共交通利用者の減少、道路運送法改正による交通事業者の路線バスからの撤退などにより、南会津町においても地域公共交通の維持が困難となってきた。しかし、マイカーを持たない高齢者や子どもなどのいわゆる交通弱者にとって公共交通は欠かせない移動手段である。特に冬期には積雪が多いこの地域においては、バイクや自転車の利用が困難となり、自動車の運転も危険性が高まるばかりでなく、道路の凍結や道幅の狭小などで歩行者の危険性も増すことから、地域の足として公共交通の役割は、必要不可欠なものである。

また、観光客などの町外からの来訪者の移動手段としては、鉄道は町の一部を通るのみであるため、駅から目的地までの移動手段として利用しやすい二次交通の整備が必要となっている。特に平成 21 年度には「南会津やまなみ泊覧会」の通年開催が予定されており、多くの観光客の来訪が予想されることから、その整備は急務となっている。

これらのことから、安心・安全そして利便性の高い地域公共交通の確保が求められており、そのためには、交通事業者だけでなく地域全体で公共交通のあり方を検討していくことが必要となっている。そこで、今後の南会津町の住みよい環境づくりのため、行政・交通事業者・地域住民・団体が一体となって、まちづくりや健康づくりも視野に入れた総合的な交通システムを検討するものである。

## 1．南会津町の概況

南会津町は、平成 18 年 3 月 20 日に旧田島町、旧館岩村、旧伊南村及び旧南郷村の 1 町 3 村が合併して誕生した。東西 43km、南北 38km、総面積 886.52 km<sup>2</sup>と県内では二番目に広大な面積を有している。

### (1) 位置

南会津町は、福島県の南西部に位置し、南会津郡下郷町、只見町及び桧枝岐村並びに大沼郡昭和村に隣接し、南は栃木県那須塩原市及び日光市に接している。会津地方の中心会津若松市まで約 45km の位置にあり、東北地方の南の玄関口となる地域である。

### (2) 地勢

地形は、越後山系から連なる帝釈山（標高 2,059.6m）を最高峰に、四方を山に囲まれており、町役場本庁舎所在地の標高は 550m である。田島地域のある東部と館岩地域、伊南地域、南郷地域のある西部の間には、中山峠、駒止峠の 2 つの峠がある。

河川は、荒海山を源とする阿賀野川水系の阿賀川と伊南川の 2 つを有し、水系とその支流沿いに 5 本の国道が走り集落が点在している。

気候は、夏は朝夕しのぎやすい大陸型、冬は厳しい日本海型に属し、特に西部の 3 地域は特別豪雪地帯に指定されている。

### (3) 概要

土地の利用状況は、91%が森林で占められており、農用地は2.5%、宅地はわずか1%にも満たない。

主な産業である農業、商業は、観光業とタイアップした取り組みが急務となっている。

昭和61年に野岩鉄道会津鬼怒川線の開通により、首都圏と一本のレールで結ばれ、昭和63年には、国道400号尾頭トンネルの開通により交通利便性の向上が図られた。さらに平成20年に国道289号の甲子トンネルが開通したことにより白河方面からの交通利便性が向上し観光客の増加が期待されるほか、平成21年度開催予定の「南会津やまなみ泊覧会」では地域力の向上による新たな観光客やリピーターの獲得に期待が高まっている。

環境保全については、平成20年度に環境基本計画を策定し、ごみなど廃棄物の減量化やリサイクルの推進に加え、間伐材を利用した木質バイオマスエネルギー、廃食用油を活用したBDFやSVO、雪氷冷熱エネルギーなど新エネルギーの導入を積極的に進め、エネルギーの安定供給や二酸化炭素排出量の削減へ取り組んでいる。

### (4) 人口・世帯数

南会津町の人口は平成21年1月1日現在で19,247人、世帯数は7,005世帯である。

人口は、昭和30年の34,703人(合併前4町村の合計)をピークに平成17年には19,870人まで減少している。年齢階層別では、昭和35年に22.9%であった若年者比率は平成17年には11.3%まで激減し、逆に高齢者比率は昭和35年に6.0%であったものが、平成17年には32.5%と激増している。

また、少子・高齢化に加え、核家族化も進行している。

表 年齢別人口の推移

区 分	昭和35年	昭和45年	昭和55年	平成2年	平成12年	平成17年
総人口	34,152	26,813	24,119	22,548	21,095	19,870
0歳～14歳	11,749	7,215	4,956	4,026	3,159	2,652
15歳～64歳	20,349	16,947	15,669	13,820	11,847	10,756
うち15歳～29歳(a)	7,808	5,025	4,090	2,988	2,626	2,250
65歳以上(b)	2,054	2,651	3,494	4,702	6,089	6,462
(a)/総人口 若年者比率	22.9	18.7	17.0	13.3	12.4	11.3
(b)/総人口 高齢者比率	6.0	9.9	14.5	20.9	28.9	32.5

(注) 上記人口は、国勢調査による

## 2．地域公共交通総合連携計画の目指すもの

本町における公共交通の利用者は長期的に減少傾向にあり、地域公共交通を取り巻く環境は非常に厳しい。しかしながら、地域公共交通は、地域の経済社会活動の基盤であり、地域における公共財的役割を果たしている。

従って、本町の公共交通の諸問題を克服していくためには、日常生活の確保と地域振興、住民の社会参加の機会の提供、通院など医療・福祉対応、地球温暖化などの環境問題への対応、などの視点に立った取組みを進めていく必要がある。

## 3．地域公共交通総合連携計画の区域

南会津町全域とする。

## 4．計画期間

平成 21 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日の 3 年間

## 5. 地域公共交通の活性化及び再生の総合的かつ一体的な推進に関する基本的な方針

### (1) 現状分析

#### 地域特性にみる現状

南会津町は 886.52k m<sup>2</sup>の広大な面積を有し、田島地域、館岩地域、伊南地域、南郷地域が、国道 121 号、289 号、352 号、400 号、401 号による一周約 80 kmの環状線道路で結ばれている。

各地域に商店、医療機関、学校、役場本庁舎または総合支所があり、観光地（観光施設）は各地に点在し、自然公園等は幹線から外れている。

田島地域は、田島駅を中心に東西南に伸びる幹線があり、医療機関、公共施設、商店街の集中エリアがある。

館岩地域は、幹線から奥行きのある枝線が 3 本あり、最終集落までは 9 km以上ある所もある。個人商店はあるがスーパーマーケットはない。

伊南・南郷地域は、伊南川を挟んで両岸に集落が点在している。

#### 公共交通の現状

南会津町の公共交通体系は、首都圏に繋がる鉄道、主に幹線を走行し二次交通の基軸となる路線バス、各地域内交通としての生活交通バス、乗合タクシー及び貸切タクシーに大別される。

鉄道については、会津鉄道会津線及び野岩鉄道会津鬼怒川線が運行されており、通勤、通学利用のみならず、会津高原尾瀬口駅及び会津田島駅を玄関口として、主に首都圏からの観光客らの重要な交通手段となっている。

バス路線については、会津乗合自動車(株)が運行する路線バスが 3 路線あり、首都圏からの来訪者及び地域における日常生活の重要な足となっている。

また、町が運行主体となり事業者へ委託して運行する生活交通バスが 4 路線、廃止代替として運行している乗合タクシーや公共交通の空白地域に運行を開始した巡回乗合タクシーが 3 路線あり、主に広域交通拠点との連絡、通勤、通学、役場等の公共施設や病院等を利用する町民の生活の足として、(株)会津高原プロジェクト及び町内タクシー事業者が担っている。

貸切タクシーについては、町内にタクシー会社が 5 社あり、路線バス等のない公共交通空白地域の居住者や移動手段を持たない高齢者等は、通常のタクシーに頼らざるを得ない状況にあるが、繁忙期には西部では依頼に対応しきれないこともある。

なお、公共交通維持対策への町負担額は、年間約 9 千万円（平成 19 年度）となっており、財政負担が大きい。



## 住民の移動の現状

地域住民の公共交通を利用した移動の状況は、田島地域住民の町内他地域への移動は非常に少なく、館岩地域、伊南地域及び南郷地域のいわゆる西部においては、自地域内移動及び田島地域への移動が多くなっている。特に館岩地域から田島地域への移動が目立っている。

高齢者のみ世帯の徒歩以外での外出の機会は1週間あたり2日以下が半数以上であり、移動の際は自家用車の利用が多く、バスは2割弱とあまり利用されていない。(以上次ページ参照)

## (2) ニーズの把握

地域公共交通に対するニーズの把握として実施した調査は以下のとおりである。

### 地域公共交通住民移動ニーズ調査

調査実施時期 平成20年8月下旬～10月上旬  
実施方法 調査員による聞き取り法  
調査対象 町内の65歳以上のみの世帯の居住者  
調査対象数 2,564人  
回収数、回収率 2,222通 (86.7%)

### 地域公共交通利用実態調査【利用者編】

調査実施時期 平成20年11月17日(月)～23日(日)の1週間  
実施方法 調査員による聞き取り法又は運転手による回答  
調査対象 町内の路線バス及び町委託バス・乗合タクシーの利用者  
調査期間中利用者1人につき1回のみ回答  
回答者数 445人

### 地域公共交通利用実態調査【運転手編】

調査実施時期 平成20年11月  
実施方法 町内の路線バス及び町委託バス・乗合タクシーの運転手へアンケート用紙への記述による調査  
回答者数 35人

### 地域公共交通利用実態調査【路線別乗降調査編】

調査実施時期 平成20年11月17日(月)～23日(日)の1週間  
調査対象 町内の路線バス及び町委託バス・乗合タクシー  
実施方法 運転手による乗降者数の計測



## 地域公共交通住民移動ニーズ調査

### 免許証の保有者は4割弱。返納する考えは少ない

運転免許証の保有状況は768で、34.6%を占めている。そのうち、すでに免許証の「返納」は14、1.8%、「考慮中」は158、20.6%に対し、「考えなし」は540、70.3%を占めて、もっとも多い。

#### 運転免許証の保有状況

	合計	免許所有	なし	無回答
全体	2222	768	1394	60
	100.0%	34.6%	62.7%	2.7%

#### 免許証の返納状況

	合計	返納	考慮中	考えなし	無回答
全体	768	14	158	540	56
	100.0%	1.8%	20.6%	70.3%	7.3%

### 外出の機会はそれほど多くない

1週間あたりの外出の状況は、「1~2日」が716、32.2%を占めてもっとも多く、次いで「ほとんどない」が530、23.9%と多い。3日以上は計33.7%で4割未満である。

	合計	1~2日	3~5日	6~7日	ほとんどない	無回答
全体	2222	716	403	346	530	227
	100.0%	32.2%	18.1%	15.6%	23.9%	10.2%

### 移動手段は自家用車の運転が多く、バス利用は16%

よく利用する移動手段は、「自動車(自分の運転)」が681、30.6%を占めてもっとも多く、次いで「自動車(家族の運転)」が569、25.6%で多い。バス利用者は361で16.2%と低い。

地域別では、南郷地域と伊南地域で「自動車(自分の運転)」の割合が高い。また、バス利用者では館岩地域の割合が高い。

	合計	鉄道	バス	乗合タクシー	貸し切りタクシー	自動車(自分の運転)	自動車(家族の運転)	自動車(家族以外の運転)	バイク・自転車	徒歩のみ	その他
全体	2222	263	361	216	200	681	569	195	302	158	31
	100.0%	11.8%	16.2%	9.7%	9.0%	30.6%	25.6%	8.8%	13.6%	7.1%	1.4%

外出目的は通院、買い物ともに6割以上

外出の目的は、「通院」が1,504、67.7%を占めてもっとも多く、「買い物」が1,364、61.4%で次いでいる。その他の目的は、総じて少ない。

地域別では、南郷地域や館岩地域で「通院」の割合が高く、田島地域、伊南地域は「買い物」の割合が高い。

	合計	通院	買い物	通勤	趣味の活動	温泉の入浴	役場や公民館などの公共施設の利用	家族の送迎	その他
全体	2222	1504	1364	80	263	137	216	113	167
	100.0%	67.7%	61.4%	3.6%	11.8%	6.2%	9.7%	5.1%	7.5%

通院時の交通費は2,000円未満が多く、うちバス・乗合タクシーは1,000円未満が多い

通院1回あたりの交通費については、回答があった中では「1,000円以上2,000円未満」が149でもっとも多く、「1,000円未満」が132で次いでいる。そのうちバス・乗合タクシーの料金では、「1,000円未満」が134でもっとも多く、「1,000円以上2,000円未満」が63で次いでいる。

地域別では、南郷地域、館岩地域の金額が高い。

通院時の交通費総額

	合計	1,000円未満	1,000円以上2,000円未満	2,000円以上3,000円未満	3,000円以上4,000円未満	4,000円以上	無回答
全体	1504	132	149	123	45	88	967
	100.0%	8.8%	9.9%	8.2%	3.0%	5.9%	64.3%

うちバス・乗合タクシー料金

	合計	1,000円未満	1,000円以上2,000円未満	2,000円以上3,000円未満	3,000円以上4,000円未満	4,000円以上	無回答
全体	1504	134	63	41	23	23	1220
	100.0%	8.9%	4.2%	2.7%	1.5%	1.5%	81.1%

買い物時の交通費は1,000円未満が半数近い。バス・乗合タクシー料金では7割を占める

買い物1回あたりの交通費については、回答があった中では「1,000円未満」が116で最も多く、「1,000円以上2,000円未満」が69で次いでいる。そのうちバス・乗合タクシー料金では、「1,000円未満」が88で最も多く、「1,000円以上2,000円未満」が22で次いでいる。

#### 買い物時の交通費総額

	合計	1,000円未満	1,000円以上 2,000円未満	2,000円以上 3,000円未満	3,000円以上 4,000円未満	4,000円以上	無回答
全体	1364	116	69	39	9	18	1113
	100.0%	8.5%	5.1%	2.9%	0.7%	1.3%	81.6%

#### うちバス・乗合タクシー料金

	合計	1,000円未満	1,000円以上 2,000円未満	2,000円以上 3,000円未満	3,000円以上 4,000円未満	4,000円以上	無回答
全体	1364	88	22	9	3	2	1240
	100.0%	6.5%	1.6%	0.7%	0.2%	0.1%	90.9%

公共交通機関が必要は8割以上

今後の公共交通機関については、「必要」が1,877、84.5%を占めてきわめて多く、「不必要」は104、4.7%にすぎない。

	合計	必要	不必要	無回答
全体	2222	1877	104	241
	100.0%	84.5%	4.7%	10.8%

必要な理由は将来的な利用可能性が6割近く、継続利用は3割弱

今後、公共交通が必要な理由については、「将来は利用する可能性がある」が1,110、59.1%を占めて最も多く、「引き続き利用したい」が522、27.8%で次いでいる。

地域別では、「引き続き利用したい」とする割合は田島地域、館岩地域で高く、南郷地域で低い。

	合計	引き続き利用したい	将来は利用 する可能性 がある	親戚や近 所の人が 利用する	その他	無回答
全体	1877	522	1110	300	21	49
	100.0%	27.8%	59.1%	16.0%	1.1%	2.6%

**公共交通機関利用について重視することは、近さ、安さ、総じて利便性がポイント**

公共交通機関利用で重視する点は、「家の近くから乗れること」が924、41.6%を占めてもっとも多く、「利用料金の安さ」が863、38.8%、「目的地の近くまで乗れること」が799、36.0%と次いでいる。

地域別では、「家の近くから乗れること」の割合は南郷地域、館岩地域で高く、「利用料金の安さ」は田島地域、館岩地域で多い。南郷地域は他地区に比べて「バスや鉄道など他の交通機関との連絡」の割合も高い。

	合計	利用料金の安さ	運行本数の多さ	希望の時間帯に乗れること	体の負担がからず乗りやすいこと	バスや鉄道など他の交通機関との連絡	家の近くから乗れること	目的地近くまで乗れること	まったく利用しない	その他	無回答
全体	2222	863	288	655	325	352	924	799	222	14	329
	100.0%	38.8%	13.0%	29.5%	14.6%	15.8%	41.6%	36.0%	10.0%	0.6%	14.8%

**地域公共交通利用実態調査【利用者編】**

**利用者の男女比率 32：67、女性が男性の2倍以上**

利用者の性別は、「男性」が141、31.7%、「女性」が299、67.2%となっており、女性の利用者が男性の2倍以上となっている。

	合計	男性	女性	未回答
全体	445	141	299	5
	100.0%	31.7%	67.2%	1.1%

**利用者の年齢は、70歳以上が6割弱**

利用者の年齢は、「70歳以上」が最も多く256、57.5%と半数以上を占めている。次いで、「60代」76、17.1%、「50代」60、13.5%と年齢が高いほど利用者数が多い傾向にある。

	合計	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	未回答
全体	445	2	10	7	10	21	60	76	256	3
	100.0%	0.4%	2.2%	1.6%	2.2%	4.7%	13.5%	17.1%	57.5%	0.7%

**利用者の居住地は、館岩地域と田島地域荒海が比較的多い**

利用者の居住地については、南会津町内では「館岩地域」74、16.6%、「田島地域荒海」72、16.2% が他の地域に比較し多くなっている。最も多い「その他」93、20.9%は東京都、埼玉県、千葉県などの首都圏からの来訪者が多くを占めている。

	合計	田島地域 田島	田島地域 檜沢	田島地域 荒海	南郷 地域	伊南 地域	館岩 地域	その 他	未回 答
全体	445	61	50	72	48	33	74	93	14
	100.0%	13.7%	11.2%	16.2%	10.8%	7.4%	16.6%	20.9%	3.1%

**利用目的は、通院が5割強、次いで買い物が3割弱**

利用者の普段の利用目的については、全体では「通院」241、54.2%が最も多く、次いで「買い物」121、27.2%が多くなっている。

各地域の居住者について同様の傾向となっているが、その他の地域（町外）居住者は「観光」が最も多くなっている。

	合計	通院	買い物	通勤	通学	趣味の 活動、友 人・知人 等訪問	役場や公 民館など の公共施 設の利用	温泉 等入 浴	観光	その他
全体	445	241	121	10	12	57	11	17	39	30
	100.0%	54.2%	27.2%	2.2%	2.7%	12.8%	2.5%	3.8%	8.8%	6.7%

**地域公共交通利用実態調査【運転手編】**

**利用者層はほとんどが高齢者**

バス（乗合タクシー）利用者層の状況については、「高齢者」34、97.1%が最も多く、ほとんどの運転手が、高齢者の利用が多くなっていると感じている。

	合計	高齢者	未成年	女性	男性	特になし	その他	未回答
全体	35	34	1	2	0	0	4	0
	100.0%	97.1%	2.9%	5.7%	0.0%	0.0%	11.4%	0.0%

**利用数の推移は半分以上が減少傾向**

最近1～3年のバス（乗合タクシー）の利用者数の状況については、「変わらない」、  
「(20%未満の)減少」がそれぞれ11、31.4%となっている。「大幅増」と「増加」を合  
わせても1割に満たないのに対し、「大幅減」と「減少」を合わせると5割を超え、減少  
傾向にある。

	合計	大幅増	増加	変わらない	減少	大幅減	その他	未回答
全体	35	1	2	11	11	8	0	2
	100.0%	2.9%	5.7%	31.4%	31.4%	22.9%	0.0%	5.7%

利用者からの要望のトップは希望の時間帯

利用者からの多く寄せられる要望については、「希望の時間帯に乗れるようにしてほしい」15、42.9%が最も多く、次いで「他のバスや鉄道などの交通機関との連絡をよくしてほしい」10、28.6%、「乗り降りなどに体力的負担が少ない車両にほしい」8、22.9%の順に多くなっている。

	合計	希望の時間帯	料金を安く	他の交通機関との連絡	家や目的地の近くから乗車	乗降しやすい車両	特になし	その他	未回答
全体	35	15	0	10	3	8	4	1	9
	100.0%	42.9%	0.0%	28.6%	8.6%	22.9%	11.4%	2.9%	25.7%

地域公共交通利用実態調査【路線別乗降調査編】

路線別の利用状況

路線名	利用状況
田島・檜枝岐線	・田島駅前～袋口間、葦ヶ平～檜枝岐間の乗降が多い ・昼間の便の利用が多い
田島・山口・内川線	・田島駅前～病院間、檜沢～山口間の乗降が多い ・昼間の便の利用が多い
田島高校・上木賊線	・田島高校～田島駅前間の乗降が多い
田島・下郷線	・栗生沢入口～病院間の乗降が多い ・午前9時台の南会津病院方面の便の利用が多い
栗生沢乗合タクシー	・午前の便の利用が多い
田島地域巡回乗合タクシー	・利用者は、他の路線と比べて少ない方である。
館岩地域生活交通バス	・一般利用者の利用人数は少ない ・幼稚園児の通園、小学生の下校のための利用が多い

### (3) 課題の把握

#### 公共交通を維持するための住民意識の醸成

高齢者のみの世帯の住民でも自家用車での移動が多く、公共交通の利用は少ない状況である。また、地域公共交通住民移動ニーズ調査の結果によると8割以上が公共交通は必要と考えるものの、その6割は将来的なニーズであり、現在からの継続利用ニーズは3割弱である。しかし、継続利用のうち8割近くが代替交通を持たないことから、公共交通の維持が必要であり、そのためには、「住民全体で支えていく」という住民への意識付けが必要である。

ちなみに平成20年12月から運行を再開した南郷地域乗合タクシーは、地元の住民らによる協議の結果、実現に至ったものである。(以上P10、資料編P40参照)

#### 通勤・通学のための利用促進

利用者の6割弱が70歳以上であり、利用目的は5割が通院、3割が買い物である。通勤・通学手段にも利用されているがそれぞれ2%台と利用者は少ない。通学距離が比較的長い小・中学生のためにはスクールバスを運行しており、高校生は自家用車で家族が送迎することも少なくない。今後、スクールバスと公共交通の併用など効率的利用の検討、通勤のための利用促進が必要である。(以上P11、12参照)

#### 高齢者の利用促進

高齢者のみ世帯の住民は、徒歩以外の交通手段の利用を伴う外出の機会は1週間あたり1~2日が3割、「ほとんどない」が2割強とそれほど多くない。外出の際も「自分の運転」、「家族の運転」がそれぞれ3割程度と自家用車の利用が多く、バス、乗合タクシー及び鉄道はどれも1~2割と公共交通にはあまり乗らない。既存の交通機関のみでは緊急時に不安もあるなどの理由から、自前での交通手段確保の意識が高いためか、運転免許証返納にも結びつきにくく、バス等の利用が急増するとは考えにくい。

主な外出目的は通院及び買い物と生活するうえで必要最低限のものであるが、趣味の活動も1割強とわずかだがみられる。高齢化、核家族化が進むなか、健康づくり、文化交流活動等へ参加するための利用も促進する必要がある。(以上P8、9参照)

#### 多様な地域特性の考慮

各地域(旧町村)に商店、医療機関、学校、役場または総合支所があるが、田島地域や会津若松市の病院や大型スーパーマーケットへ出かけることもあり、広大な土地に集落が点在するため移動距離は長い。現在は、バスと鉄道の乗り継ぎの際の待ち時間も長く、幹線道路もバスの乗り継ぎが必要である。交通費は通院1回当たり2,000円未満が、買物1回当たり1,000円未満が多い。また、合併以前の料金及び免除対象の設定を継続しており、町内の統一が図られていない。

今後、利用者のニーズに応じた運行経路、料金、ダイヤの見直しが必要である。(以上P9、10、資料編P43参照)

#### 公共交通空白地域、不便地域の解消

田島地域の折橋区、伊南地域の青柳区、多々石区は公共交通の運行がなく、田島地域高野区は5～10月のみ昭和村で委託しているバスが運行している状況である。また、伊南地域では、伊南川の右岸にあるクリニック及び白沢区、左岸の宮沢区を路線バスが交互に通過しており、住民に不便をきたしている。住民からの要望等を踏まえたうえで、公共交通空白地域、不便地域の解消が必要である。

#### 観光客等来訪者の利便性の向上

観光地(観光施設)は各地に点在している。特に自然公園等は幹線から外れていて、そこまではバスなどが運行していない。そのため、バスなどを利用した観光客は田島～檜枝岐線が大部分で、その多くは尾瀬に行っている。平成21年度には「南会津やまなみ泊覧会」の開催も予定しており、観光地への交通アクセスの向上や、初めての来訪でも利用しやすい案内などの整備が必要である。

### (4) 基本的な方針

地域公共交通は、通院などの医療・福祉への対応など日常の移動手段としてだけではなく、町民の便利・安全・安心な日常生活の確保、社会参加の機会の提供、さらには地域振興への寄与、地球温暖化対策などにも重要な性格を有している。また、本町において平成21年度開催予定の「南会津やまなみ泊覧会」を契機として、増加が予想される来訪者の交通利便性を高めていく必要がある。

このため、地域公共交通の改善にあたっては、通勤、通学、買い物などのより豊かな日常生活支援、交通弱者への移動手段の提供、公共交通不便地域・空白地域の解消、観光客などの来訪者の利便性の向上などを目的として、鉄道、バス、タクシーが連携し、地域特性にあった運行形態、ダイヤを確保することが重要である。

#### 日常生活の確保と地域振興

地域公共交通空白地域や不便地域では、買い物など日常生活にも不便をきたしており、その地域の活力を向上させることの障害ともなりうる。そのため、人口減少や高齢化が進む本町では、これらの地域を減少させていく必要がある。

また、本町にとって観光は重要な産業であり、特に町外からの来訪者のために鉄道とバスなどの2次交通の連絡を密にし、来訪者の増加や地域振興を図るために交通利便性を高めていく必要がある。

#### 町民らの社会参加の機会の増加

移動手段がないため、地域の行事、社会活動への参加が困難な住民に、気軽に社会活動等に参加してもらうためにも、便利で安心して利用できる地域公共交通を提供することは重要である。特に高齢者のみの世帯では社会との繋がりが希薄になりやすいことから、健康で文化的な社会生活をおくるための手段として地域公共交通は重要であり、便数の増加や新しい路線が必要である。



### 通院など医療・福祉対応の向上

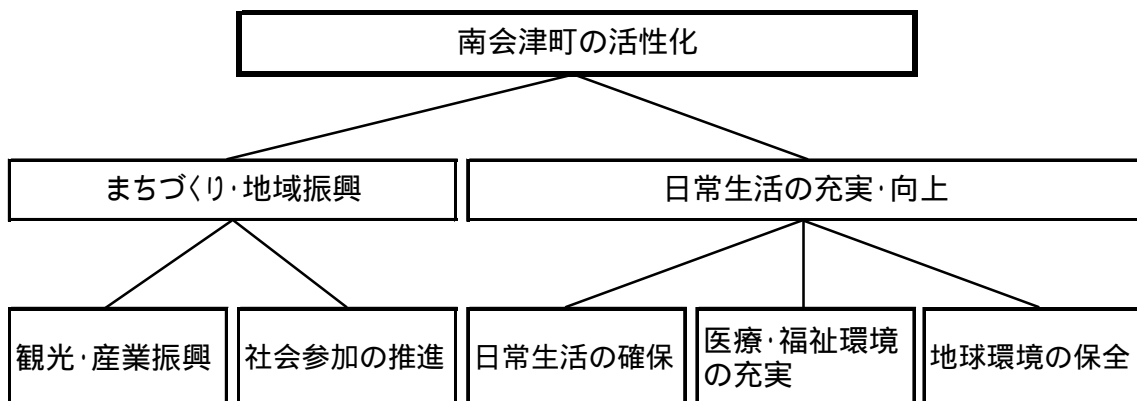
前述したアンケート調査結果などからもわかるように、地域公共交通利用の主要な目的の1つは通院であるため、こうした需要に応える地域公共交通体系の構築が必要である。特に病院や福祉施設などの利用者は、高齢者・障害者などの移動の困難な者が多いため、なるべく施設の近くに路線や停留所が設定されること、また、乗降の際体力的負担が小さい車両の運行が望まれるほか、町外の医療機関への通院のために鉄道との連絡を密にし、乗り継ぎのしやすい運行が必要である。

### 地球温暖化などの環境対策の推進

今日、低炭素社会の実現が求められているが、地球温暖化防止対策として公共交通機関が果たす役割は大きい。具体的には、通勤・通学時における地域公共交通機関の利用促進、地域公共交通の運行の拡充や経路・ダイヤの見直し、あるいはノーマイカーデーの導入などの方策があげられる。

マイカーから地域公共交通機関による通勤への転換などを実現するためには、受け皿としての地域公共交通機関の充実は勿論ではあるが、あわせて町民や企業の意識の向上や積極的な取り組みが必要である。

図 公共交通の整備からみた町のあるべき姿



## 6. 地域公共交通総合連携計画の目標

以下の項目を目標にして、地域公共交通の維持及び地域活性化の実現に向けて取り組んでいく。

- (1) 乗りやすい運行によりバス、乗合タクシー等の利用者及び運賃収入の増加を目指す。
- (2) 運行経路の見直しにより、交通不便、空白地域の解消を目指す。
- (3) 住民全体で公共交通を支える意識の醸成及び雰囲気づくりを目指す。

## 7. 目標を達成するために行う事業及び実施主体に関する事項

### (1) 計画事業の概要

#### 町内循環バスの運行

町内4地域を經由し、主に幹線道路を周回する双方向(右回り・左回り)の循環バスを運行する。地域住民と観光客等の来訪者が一緒に移動できる運行体制を整備することにより、観光振興と一体化した効率的な地域公共交通を実現する。

平成21年度から観光客の来訪が見込める時期に実証運行を計画する。基本的に既存路線バスの隙間を埋める時間帯に運行することとし、鉄道への乗り継ぎも考慮する。運行経路には交通空白、不便地域を含めることで、その解消を目指す。南会津町が会津乗合自動車(株)に運行業務を委託し実施する。(事業主体：南会津町、会津乗合自動車(株))

#### 路線バス運行経路の見直し

交通空白、不便地域の解消及び通院手段の確保のため、会津乗合自動車(株)が運行する「田島高校・上木賊線」の運行経路の見直しを計画する。最近、田島地域の祇園会館付近にクリニックが開院しており、通院利用者が見込まれる。国道289号の拡張工事及び信号機設置完了後、安全性を検証し、平成21年度中の実証運行を目指す。

また、同じく交通不便地域の解消及び通院手段の安定確保のため、会津乗合自動車(株)が運行する国補助対象である生活交通路線「田島・山口・内川線」の全便が宮沢区、白沢区及び小野木クリニックを通過するように運行経路の見直しを計画する。さらに、鉄道への乗り継ぎがよくなるようダイヤの見直しをする。これについても、平成21年度中の実証運行を目指す。(以上、事業主体：会津乗合自動車(株))

それにより利用者が減少すると予想される町委託バス「田島・山口・内川線」(内川発6:05便)の運行を廃止する。

#### 田島地域中心市街地の巡回バス運行

田島地域中心市街地において、住民及び来訪者の交通手段の利便性を向上することにより、住民の社会参加及び来訪者の回遊を促進するため、公民館や支援センター等の公共施設、医療機関、駅、学校、旧南会津郡役所や祇園会館などの観光施設などを結ぶ巡回バスの運行を計画する。運行距離を短くすることで料金を低額にし、住民や来訪者の利用促進を図る。

車両は南会津町で小型・ノンステップバスを購入予定であり、南会津町から会津乗合自動車(株)に運行業務を委託して、平成21年度からの実証運行を計画する。

(事業主体：南会津町、会津乗合自動車(株))

#### 町道の新設に伴う運行経路の見直し

今後拡張、開通予定の道路計画の進捗状況をふまえ、利用しやすく効率的な枝線交通の運行及び地域振興を図るため、運行経路の見直しを計画する。特に、平成21年秋開通予定の館岩地域の町道唐沢線は木賊温泉と湯ノ花温泉をつなぐ道路であり、さまざまな利用が考えられる。既存の町委託生活交通バスの運行形態の見直しや、尾瀬国立公園田

代山湿原の環境保全もあわせて検討する。（事業主体：南会津町）

#### 乗合タクシーの増便

さまざまなイベント等が予定されている平成 21 年度夏期に、現在平日のみ運行している南会津町委託乗合タクシーの休日運行を計画する。来訪者の利用だけでなく、住民が他地域のイベントや文化事業等へ参加する機会の増加を図る。

（事業主体：南会津町、タクシー事業者）

#### 町委託路線の料金及び免除対象の見直し

利用促進のための料金の減額及び町内免除対象の統一を平成 21 年度内に予定する。以上については、南会津町が旅客運送事業者へ運行業務を委託し実施する。

（事業主体：南会津町、旅客運送事業者）

平成 20 年 4 月から運行を一時休止していた町委託「南郷地域巡回バス」は、同年 12 月から「南郷地域乗合タクシー」の運行を開始したため運行廃止とする。また、同年 4 月から運行を一時休止していた町委託「長野乗合タクシー」は、会津乗合自動車（株）が運行する路線バスと路線が重複しており、その利用も認められ、さらに平行して鉄道も運行していることから、同様に運行廃止とする。

#### 地域公共交通の利用を促す取り組み

住民や観光客など来訪者に分かりやすい情報を提供し、利用したくなる割引制度の導入や利便性向上を目指すとともに、親しみのもてるバスを実現するため下記の事業を計画、実施する。

- ・ 時刻表及びルートマップの作成、配布

会津乗合自動車(株)が運行するバス、町が委託運行する生活交通バス・乗合タクシーを統合した時刻表及びルートマップの作成、配布を計画する。

平成 21 年度中に事業着手予定とする。

（事業主体：南会津町）

- ・ 路線バスの停留所の新設及び名称の変更

来訪者の利用が見込まれる停留場では覚えやすい名称に変更し、また住民が親しみやすい名称にする。平成 21 年度中に事業着手予定とする。

（実施主体：会津乗合自動車(株)）

- ・ 主要な路線バス停留所の看板デザインのリニューアル及び観光交通案内板の設置

利用が多い主要な停留所の看板を、町の雰囲気にあった独自性の強いものに変更する。案内板は多種多様な公共交通の運行経路や時刻表がわかるのとし、田島駅、会津高原尾瀬口駅、会津乗合自動車(株)山口営業所への設置を計画する。平成 21 年度中に事業着手予定とする。（事業主体：南会津町）

- ・ 車両デザインのリニューアル及び愛称の募集

町内循環バスで使用予定の会津乗合自動車(株)所有のバスを、南会津町の雰囲気にあうデザインにラッピングし、あわせて、町内循環バスや田島地域中心市街地巡回バスなどの愛称も募集するなどして、来訪者や住民が親しみを持てるものとする。

平成 21 年度中の運行開始を目指す。

(事業主体：南会津町)

- ・ 乗降フリーパスの導入検討

会津乗合自動車(株)が運行する路線バスであり、町内循環バスの運行区間内について、乗降を自由にできる乗車券等を検討する。フリーパスやその宣伝用広告などは南会津町が作成し、販売は会津乗合自動車(株)が行う。町内循環バスの運行に合わせた導入を目指す。

(事業主体：南会津町)

- ・ 各種割引制度の導入検討

商店やイベントとの合同割引、運転免許証返納者への割引などさまざまな割引制度の導入について、商工会や企業などの関係団体との協議を平成 21 年度に実施し、平成 22 年度開始を目指す。

(事業主体：南会津町)

- ・ ノーマイカーデーなど公共交通利用の推進

町内企業の通勤の現状を把握し、通勤利用の促進へ向けた交通体制を検討する。

また、ノーマイカーデーを設定し、町内企業や団体へ呼びかけるなど、公共交通の利用を推進する。

(事業主体：南会津町)

- ・ 町内公共交通機関との相互連携の推進

鉄道、町内のバス、タクシー及び行政の相互連携を継続・促進し、より利便性の高い交通システムの構築を目指す。

(事業主体：南会津町、バス事業者、タクシー事業者)

- ・ 住民との協働による公共交通の維持

「住民全体で支えていく」という意識の醸成により、町における活動はもとより、住民の具体的な取り組みが行われた場合などには、今後もそれらの活動や要望に積極的に対応していくことを検討する。

(事業主体：南会津町、住民代表)




## (2) 計画事業の工程計画

目標を達成するため、下記の事業工程表のとおり運行または実験及び検討する。

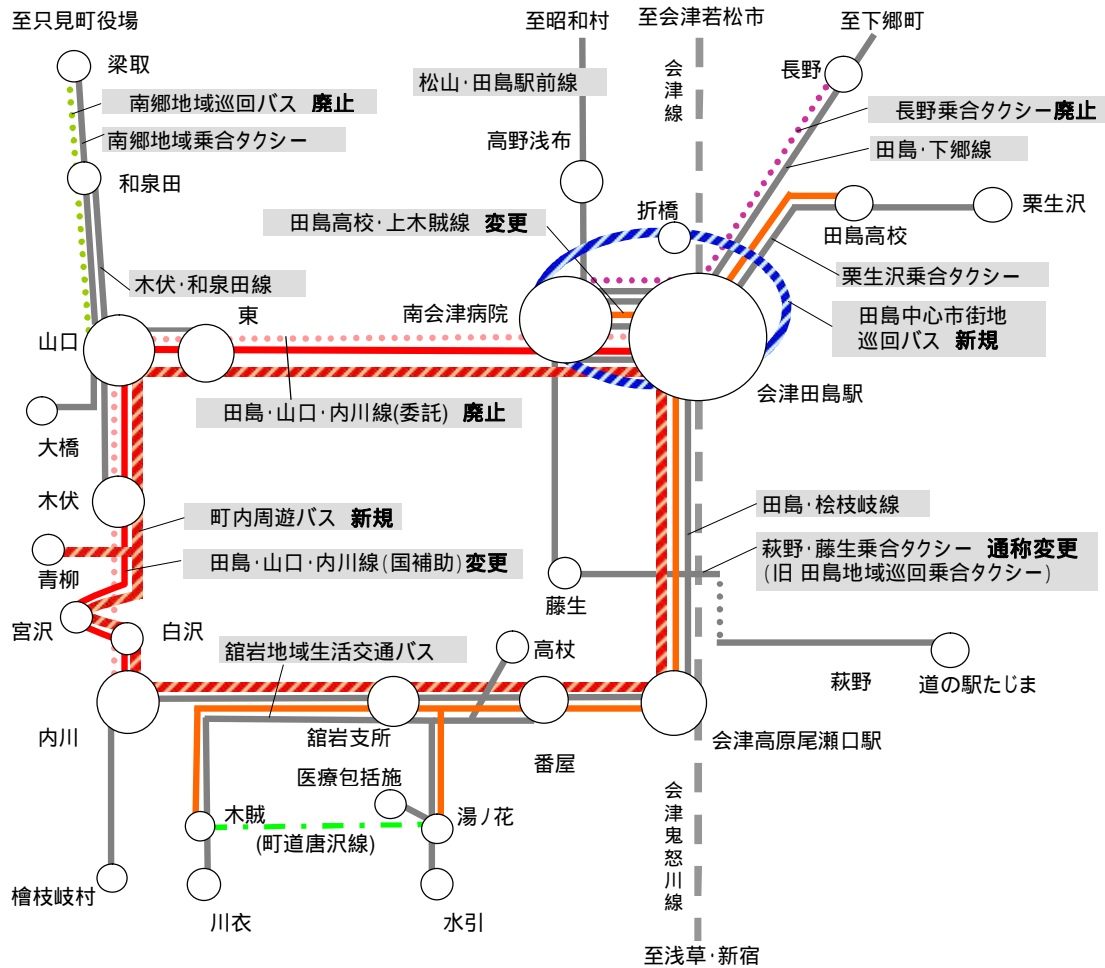
基本的に、路線バス等の運行については、初年度に実証運行を行い、翌年度はそれに改善を施し、本格運行または再度実証運行を行うこととする。

表 総合連携計画事業工程表

事業		平成21年度	平成22年度	平成23年度
町内循環バスの運行				
路線バス運行経路の見直し				
田島地域中心市街地の巡回バス運行				
町道の新設に伴う運行経路の見直し				
乗合タクシーの増便				
町委託路線の料金及び免除対象の見直し				
地域公共交通の利用を促す取り組み	・時刻表及びルートマップ作成、配布			
	・路線バスの停留所の新設及び名称の変更			
	・主要な路線バス停留所の看板デザインのリニューアル及び観光案内板の設置			
	・車両デザインのリニューアル及び愛称の募集			
	・乗降フリーパスの導入検討			
	・割引制度導入の導入検討			
	・ノーマイカーデーなど公共交通利用の推進			
	・町内公共交通機関との相互連携の推進			
	・住民との協働による公共交通の維持			

	検討
	実証運行・実験
	本格運行・継続

## 南会津町路線バス等運行計画



変更路線

番号	路線名	運行主体	補助等	新規・継続	運行距離	運行回数	運休日	備考	
	町内周遊バス	南会津町		新規	約80km	2.5往復		////	
	田島中心市街地巡回バス	南会津町		新規	約9km	7便		////	
	田島高校・上木賊線	会津バス	町負担金	経路変更	61.2km	1.0往復	日・祝	////	
	田島・山・内川線	会津バス	国補助・町負担金	経路変更	41.4km	4.5往復		////	
	田島・山・内川線	南会津町		廃止	39.9km	0.5往復	日・祝	.....	
	南郷地域巡回バス	南会津町		廃止	13.4km	5.0往復		.....	
	長野乗合タクシー	南会津町	県補助	廃止	8.0km	2.0便	土・日・祝	.....	
	町道唐沢線	平成21年秋開通により活用を検討							.....

7～10月の土・日曜日、祝・休日のみ運行予定。

### (3) 近隣町村などとの連携

実証運行及び検討の主体は「南会津町地域公共交通会議」であるが、路線によっては近隣町村などまで影響するものもあるため、検討の過程では必要に応じてこれら町村とも綿密な連携をとりつつ実施するものとする。